

減量推進員ニュース

発行:茨木市 産業環境部 資源循環課

TEL:072-620-1814 FAX:072-627-0289 E-mail:shigenjuncan@city.ibaraki.lg.jp



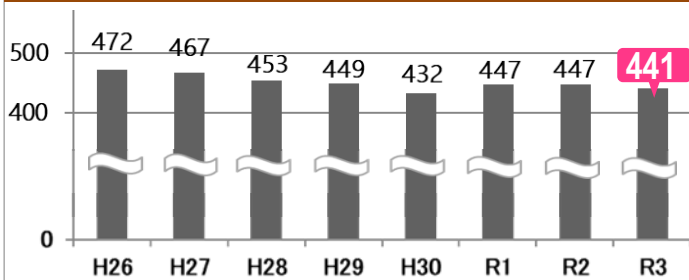
1

報告 茨木市のごみの現状について

茨木市のごみ・資源物の発生量と最終処分量、ごみの組成は下表のとおりです。

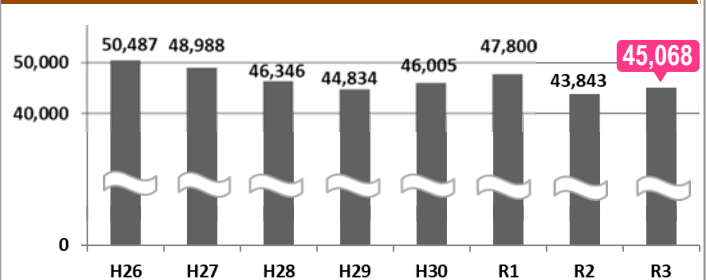
(1) ごみ・資源物の発生量と最終処分量

市民1人1日あたりの家庭系ごみ排出量 (単位:g)



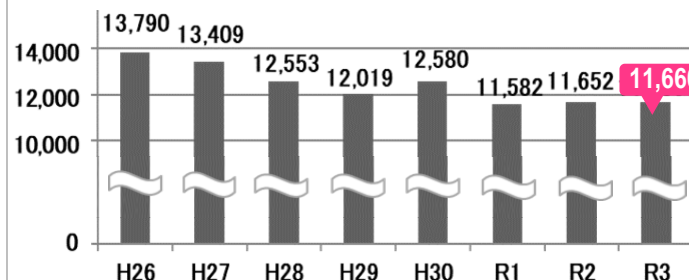
※H30年度は災害ごみを除く。

事業系ごみ排出量 (単位:t)



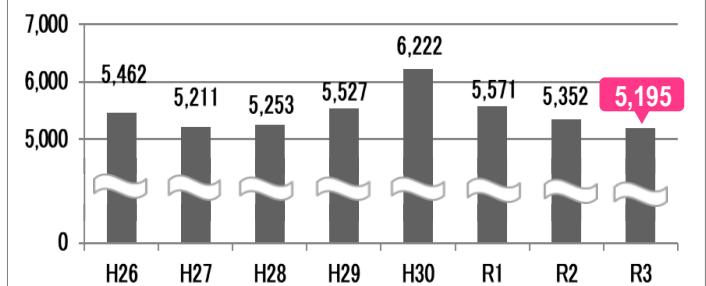
※H30年度は災害ごみを除く。

資源物回収量 (単位:t)



※資源物回収量は、市収集分と民間回収分(集団回収+小型家電の宅配回収も含む)の合計。

最終処分量 (単位:t)

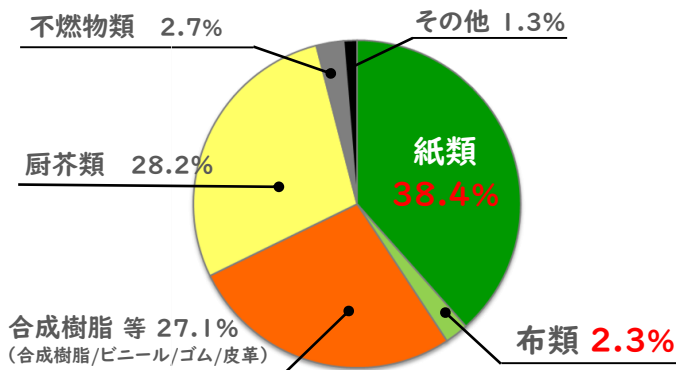


※R2年度までは摂津市から搬入されたごみの最終処分量(約1.6~2.3%)を含む。また、H30年度は災害ごみを含む。

(2) ごみの組成

令和3年度(2021年度) 組成分析結果

(湿ベース・平均値)



この結果から、「混ぜればごみ、分ければ資源」と言われるように、ごみの分別により一層取り組み、資源物を資源として適切に回収することが、ごみの減量につながります。

(1) ごみ・資源物の発生量と最終処分量

(上の4つの棒グラフ)

昨年度の本市のごみ排出量を前年度と比較すると、市民1人1日あたりの家庭系ごみの排出量については微減しましたが、事業系ごみの排出量については、増加しています。背景には新型コロナウイルスの感染拡大の影響に伴い縮小していた経済活動の回復が影響していると推測されます。

また、資源物の回収量については微増、最終処分量については、前年度よりも減少しました。

(2) ごみの組成 (左の円グラフ)

昨年度の家庭から排出されたごみの40.7%が資源として有効に利用できる紙類、布類でした。

ごみの減量・再資源化に向け、更なるご協力をお願いします!

2

紹介

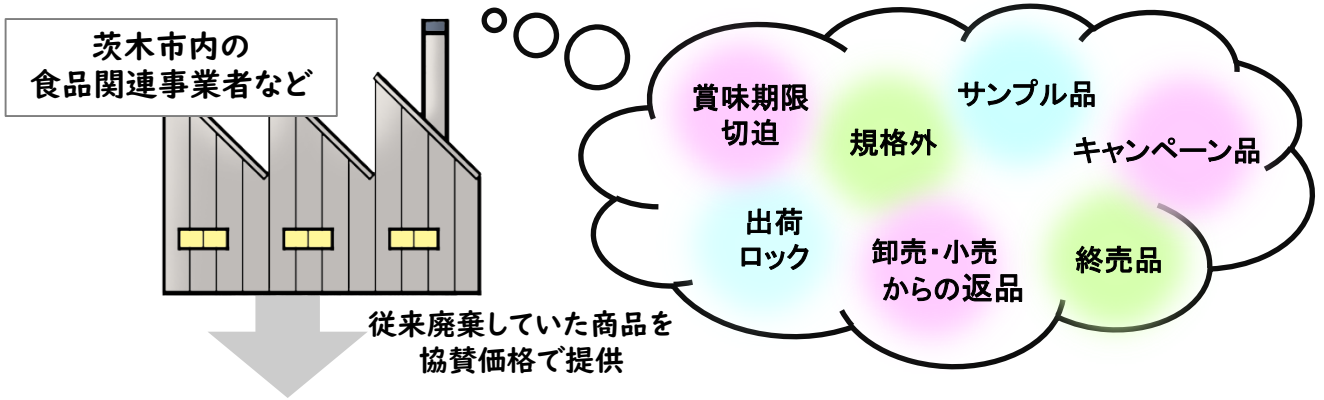
ショッピングサイト『Kuradashi』を利用して、食品ロス削減に貢献しよう！

本市は令和4年10月に株式会社クラダシと食品ロス削減に向けた連携協定を締結しました。

まだ食べられるのに捨ててしまわれている食品を「食品ロス」いい、日本では年間522万トンも発生しています。食品ロスの発生量を日本人1人あたりで計算すると、毎日お茶碗1杯分(113グラム)、1年間に約41キログラムの食べ物が捨てられていることとなります(農林水産省「食品ロスの削減に向けて(令和4年6月)」)。

また、本市においても、令和3年度に実施した家庭系普通ごみの組成調査の結果、普通ごみのうち約12%は食品ロスであるという結果が得られています。

今回協定を締結した(株)クラダシが提供する『Kuradashi』というショッピングサイトは、賞味期限の切迫や季節商品、パッケージの汚れやキズなどの要因で消費可能でありながら通常の流通ルートでは販売が困難な商品を提供しており、その売上の一部は社会貢献団体へ寄付される仕組みとなっています。



茨木市民の皆さま



ネットショッピング

最大97%OFFで
購入



売上の一部を寄付

環境保護や
動物保護活動を行
う団体



社会貢献団体

あなたも
「Kuradashi」を利用し、
食品ロスの削減・社会貢献に
参加してみませんか？

会員登録(無料)ですぐにお買い物できます! >>>



食品ロス削減の取組は、国連が推進する「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成に寄与します。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

12 つくる責任
つかう責任

